

国際シンポジウム

ダイバーシティを奨励する文化実践

～イミグレーション・ミュージアム・メルボルンとの対話～

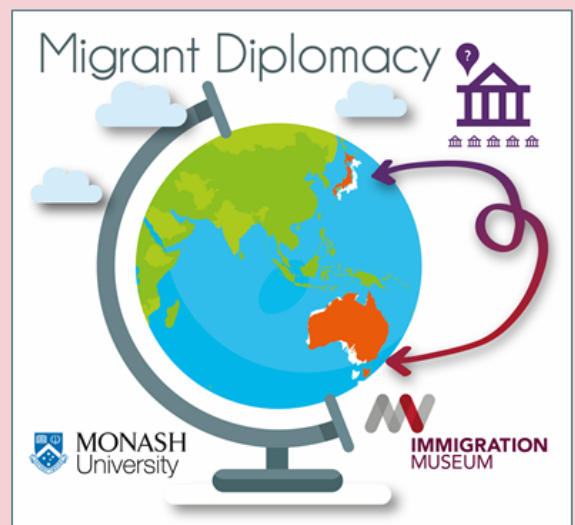
日時：2018年4月22日（日）

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館6階 G-Lab

アクセス <https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

<プログラム>

- 1：45-2：00 はじめに
岩渕功一（モナシュ大学）、塩原良和（慶應義塾大学）
- 2：00-3：15 イミグレーション・ミュージアムでの多
様性の奨励に向けた実践
Linda Sproul, Jan Molloy, Janel Yau
（イミグレーション・ミュージアム・メルボルン）
L-FRESH（ミュージシャン）
Alice Pung（作家）
- 3：30-4：30 日本における文化表現とダイバーシティ
イミグレーションミュージアム東京・パイロットプロ
ジェクト
岩井成昭（秋田公立美術大学教授、イミグレーション
ミュージアム東京主宰）
東京都美術館 とびらプロジェクト
伊藤達矢（東京芸術大学特任准教授、とびらプロジ
ェクト・マネージャー）
NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク 「ここ
にいる」キャンペーン
益子亜明（学生ボランティア）
- 4：45-5：45 多様な文化背景を持つ若者との対話
水野幸美（NPO 法人勤務、中国残留孤児3世）
星玖藤原 愛紗（大学生）
益子亜明（大学生）



入場無料・日英同時通訳あり

主催：モナシュ大学
モナシュ・アジア研究所
共催：カルチュラル・スタディーズ学会
（2018年度研究例会）
後援：オーストラリア・豪日交流基金
協賛：移住連「ここにいる」キャンペーン

 MONASH University


Australian Government


豪日交流基金
Australia-Japan FOUNDATION


60th
Anniversary
1957 AUSTRALIA-JAPAN
COMMERCE AGREEMENT



＜登壇者プロフィール＞

Linda Sproul | リンダ・スプロール

ミュージアム・ピクトリア・マネージャー（パブリックプログラム及び教育担当）。イミグレーション・ミュージアム（メルボルン）のパブリックプログラムや Scienceworks など、多様なオーディエンスとのエンゲージメントプログラムを行なっている。俳優、教員としてのキャリアを持ち、幼児のための演劇プロジェクトを行う他、Next Wave Festival ではプログラム・ディレクターとして、コンテンポラリーアートに携わる

Jan Molloy | ジャン・モロイ

イミグレーション・ミュージアム（メルボルン）プログラムコーディネーター。学校教員としての30年以上のキャリアを持つ。また Kew High School のリーダーシップチームとして、教員のプロフェッショナル・ラーニング・プログラムや、新しいカリキュラムの実践に携わる。2015年よりモナシュ大学と連携し、"From Asia Literacy to Australia Literacy" のセッションをコーディネート。

Janel Yauis | ジャネル・ヤウ

イミグレーション・ミュージアム（メルボルン）の上級プログラムオフィサー。コミュニティ・エンゲージメントやフェスティバルなどのパブリックプログラムに携わり、学生や訪問者が創造的で記憶に残る経験をするプログラムを開発。デジタルメディアを通してアイデンティティ、帰属、人種化についての問題を考える Talking Difference 展示プログラムを統括している。

L-FRESH The LION | エルフレッシュ・ザ・ライオン

ヒップホップアーティスト(Australian Recording Industry Association ノミネート)イミグレーション・ミュージアムの Talking Difference Fellow として、オーストラリアの社会政治史における人種差別について、個人的な体験を共有しながら地域の学生と探求している。彼のストーリーは、自身の人生とキャリア、そしてコミュニティのためにネガティブな体験をポジティブに変化させた証言なのである。

Alice Pung | アリス・プン

メルボルン在住。作家、ジャーナリスト、弁護士。著書 Unpolished Gem Her Father's Daughter and Laurinda は、翻訳され国際的に出版されている。Peking University, Brown University, Vassar College (US), the University of Bologna and The University of Milan (Italy) にゲスト講師として招かれる。メルボルンの Writers' Festival において、イミグレーション・ミュージアムの学校とのエンゲージメントプログラムに携わる。

岩井成昭（いわいしげあき）

秋田公立美術大学教授、イミグレーションミュージアム東京主宰）、美術家。1990年代から都市の変容、特に多文化化をテーマに複合的なメディアによる視覚表現を展開。欧州、豪州、東南アジアの調査を踏

まえて、2011年からイミグレーションミュージアム東京・パイロットプロジェクトを始動させた。

伊藤達矢（いとうたつや）

東京藝術大学特任准教授・「とびらプロジェクト」マネージャー。東京藝術大学と東京都美術館が連携する「とびらプロジェクト」では、約120名のアート・コミュニケーターと共に、美術館を拠点に、人と人、人と作品を繋ぐ活動に従事する。また、上野公園に集まる9つの文化施設を連携させた「Museum Start あいうえの」では、児童擁護施設やカルチャーギャップを持つ子供たちを支援している NPO などと連携したプログラムを実践している。

益子亜明（ましこあみん）

立教大学社会学部4年在籍。マイノリティやその社会的包摂に関心があり、今夏よりカナダへ1年間留学予定。中国・上海出身の母と日本・栃木出身の父を持つ。「NPO 法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク」の「池袋 WKAUWAKU 勉強会」（無料学習支援教室）また「NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク」でボランティアをしている。

星玖藤原 愛紗（シェイクフジハラアイシャ）

4月から大学生。ペルー出身の母とパキスタン出身の父を持つ。母の祖国であるペルーを訪れたことがきっかけとなり、私は子どもの教育や貧困問題に関心を持った。いつか世界の貧しい人々の役に立つ人になりたい。夢に一歩近づけるために「大和 IFC」（大和 internacional friend club）や「NPO 法人 Ed.ベンチャー（エストレジャー・ハッピー教室）」でボランティアをしている。

水野幸美（王艺昆）

都内の NPO 法人勤務。中国残留邦人3世。父が中国人で母が2世。中国内モンゴル自治区で生まれ、3歳の時に来日し、大阪府堺市で育つ。人生のほとんどを通名（日本名）で過ごし、19歳のときに日本国籍に変更。最近の興味関心事は「ルーツ肯定」までのプロセスや、アイデンティティ発達。現在絵画と中国語を習っている。

Koichi Iwabuchi | 岩淵功一

モナシュ大学教授・モナシュアジア研究所所長。専門はメディア&文化研究で、主な研究関心は、トランスアジア文化連携、多文化主義、文化シティズンシップなど。日本のテレビ会社に勤務後、オーストラリアで Ph.D. を取得。ICU、早稲田大学を経て、2012年から現職。社会における文化多様性の促進に向けて、メルボルンのイミグレーション・ミュージアムと協働するとともに、東アジアの多文化表現実践プロジェクト TEAM project (Trans-East-Asia Multiculturalism) も主宰。

塩原良和（しおばらよしかず）

慶應義塾大学教授。専門は社会学・社会変動論。博士（社会学）。オーストラリアと日本を主なフィールドに、多文化主義・多文化共生、移民・外国人住民をめぐる政策や社会現象を研究している。